

令和7年度 能見台地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

能見台地域ケアプラザの担当圏域は、能見台、金沢東部、金沢中部、富岡西・能見台の4地区にまたがっており、それぞれ地域住民主体の取組や特徴的な地域活動が行われている。
 ケアプラザは、各地区の特性やニーズに応じて情報提供や活動支援を行うほか、地域の人材や資源を相互につなぐ役割を担っている。今後も、地域の状況をよく観察し、住民主体の活動の立ち上げや、活動継続に向けた支援に取り組んでいく。また、隣接する地域ケアプラザと情報共有し、連携して地域支援に取り組んでいく。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	■	個別ケースの課題から出た地域課題である買い物支援について、地域ケア会議(協議体)などを通じて専門職や関係機関、地域住民への周知を図り、課題解決につなげていく。
<input type="checkbox"/>	■	地域が主体となった介護予防・社会参加の場が増えるようにリーダーとなる元気づくりマイスターの養成と、活動の後方支援を行っていく。(かなざわ葬斎館での健康セミナー1回/月・友引の日の開催、男性限定体操教室の拡充)
<input type="checkbox"/>	■	誰もが住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、エンディングノート、もしも手帳の他、救急あんしんカード等の普及・啓発に努める。
<input type="checkbox"/>	■	地域の集いの場や話し合いの場に積極的に参加し地域の社会資源情報を収集すると共に、活動における課題を把握し、活動の発展・継続に向けて働きかけ、地域支援・個別支援につなげていく。
<input type="checkbox"/>	■	地域の方の声に常に耳を傾け5職種間での連携をとり、あらゆる方が参加できる事業を企画実施する。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

包括レベル地域ケア会議「買い物の継続から考えるフレイル予防」で出された住民の声を踏まえ、今年度のテーマを設定した。
 会議では、生活の基盤となる「買い物」を切り口に、認知症やフレイル状態となっても、住民一人ひとりが生きがいや楽しみを持ち続けたいという住民の声を、民間企業や支援者が共有することができ、今年度は住民と共に介護予防に資する社会資源の創出および維持に取り組んだ。
 具体的には、5職種が連携し、要支援認定者やフレイル状態に陥る可能性のある方を想定した支援を実施した。特に、介護保険に頼らず男性が地域に参加できる場として「男性限定ストレッチ教室」の継続、西柴町内会において「移動販売サンハイツマーケット」の継続、民間企業「かなざわ葬斎館」での月1回のセミナーの実施など、外出機会の拡充を図った。葬斎館では葬儀、エンディングノート、高齢者サポート事業に関する情報を地域に普及し、住民が安心して選択できる環境づくりにつながっている。また、ケアプラザでは「街の先生とフレイル予防」を年間を通して実施し、多様なテーマで誰もが参加できる機会を設けた。介護予防を意識しながら、気軽に立ち寄れる場づくりを進めることができた。

区からのコメント

職員間および区・関係機関との定例的な情報共有を基盤に、サロンや出張講座、UR・市営住宅への働きかけ等を通じて潜在的ニーズを丁寧に把握し、ワンストップの相談体制と“相談しやすい場づくり”を着実に進めています。
 また、住民主体の取組では、町内会別に「見守り・体操・交流」を意識した支援方針を共有し、買い物支援やごみ出し支援など日常課題をテーマに、多世代の学び・参加へつなげる後方支援を重ねるとともに、移動販売の継続支援や男性向け体操、ボランティア交流・育成、地域の“街の先生”の活躍機会の創出等により、インフォーマルサービスの見える化と参加機会の拡大が進展しました。
 チームオレンジの推進をはじめ、認知症サポーター養成講座や介護者のつどいなど、地域の実情に添った細やかな支援に取り組んでいただいています。北部エリアでの権利擁護の普及啓発、虐待ケースへの迅速かつ適切な対応等も着実に進められています。医療機関との関係構築やインフォーマルサービスの活用、買い物支援をテーマにした地域ケア会議の開催などを通じ、地域課題を共有し、解決へつなげる具体的な行動につながっています。今後も個別ケースや地域の声をもとに、課題解決に向けて区と一緒に取り組んでいただくことを期待します。